

高校教育の質の確保・向上に係る  
参考資料

# 平成25年度 全国学力・学習状況調査 (きめ細かい調査)

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

## ✦ 本体調査（全数調査）

調査実施日：4月24日（水）

### 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

### 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

### 調査内容

#### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li> </ul> など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li> <li>・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力</li> </ul> など

#### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査(※)	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

※25年度調査は、きめ細かい把握・分析ができるよう複数化(3冊子)して実施。

### 時間割

#### ◎小学校（児童質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目 (45分)	2時限目 (45分)	3時限目 (45分)	
国語A (20分) , 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	児童質問紙 (20分程度)

#### ◎中学校（生徒質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	生徒質問紙 (20分程度)

# 平成25年度全国学力・学習状況調査

## 教科に関する調査結果

### ● 今年度の調査問題の主な特徴

「4年間のまとめ」(※)で指摘した課題等、これまでの調査で見られた課題についての改善状況を把握する観点からの問題を出題

※ 国立教育政策研究所において、平成19～22年度の4回の調査結果を分析して、成果と課題を整理した報告書

### ● 調査結果の概略

- これまでの調査で見られた課題について、依然として課題が見られるものがある。
- 一方、今回の調査を見る限り、改善状況が見られたものがあるが、これらについては引き続き注視が必要。

		依然として課題が見られるもの	改善状況が見られたが、引き続き注視が必要なもの
小学校	<b>国語</b> 【A問題】 平均正答数:11.3問/18問 平均正答率:62.9% 【B問題】 平均正答数:5.0問/10問 平均正答率:49.6%	複数の内容を含む文の中の語句の役割や語句相互の関係を理解すること (接続語を使って1文を2文に分けて書く) 設問 【A3二(1)】(23.6%) 調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと (リーフレットの編集に当たり、編集会議での意見を受け、該当する資料から必要となる複数の内容を取り上げて、自分の考えを具体的に書く設問 【B2三】(17.9%))	ことわざの意味を理解すること (「石の上にも三年」の意味として適切なものを選択する設問) 【A2一】(71.3%)
	<b>算数</b> 【A問題】 平均正答数:14.7問/19問 平均正答率:77.3% 【B問題】 平均正答数:7.6問/13問 平均正答率:58.6%	乗法や除法の意味を理解すること (2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ設問) 【A4】(50.2%)	求積に必要な情報(図形の長さ・性質)を取り出して面積を求めること (台形の面積を求める式と答えを書く設問 【A5(3)】(73.5%))
中学校	<b>国語</b> 【A問題】 平均正答数:24.6問/32問 平均正答率:76.8% 【B問題】 平均正答数:6.1問/9問 平均正答率:68.0%	説明的な文章について、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと (新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問) 【B3一】(61.6%)	必要となる情報を取り出し、関係付けて読むこと (市民センターの催し物案内を読み、前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座を選択する設問 【A4二】(70.6%))
	<b>数学</b> 【A問題】 平均正答数:23.1問/36問 平均正答率:64.3% 【B問題】 平均正答数:6.8問/16問 平均正答率:42.4%	一定の事柄が成り立つ理由や予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること (安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する設問) 【B1(3)】(24.7%) (2けたの自然数と、その数の十の位と一の位を入れかえた数の和を予想し、説明する設問 【B2(2)】(39.3%))	具体的な事象における数量の関係性を捉え、連立二元一次方程式をつくること (ノートと鉛筆の値段を求めるための連立二元一次方程式をつくる設問 【A3(3)】(83.1%))

# ピザ PISA (OECD 生徒の学習到達度調査) の概要

(PISA=Programme for International Student Assessment)

※OECD (経済協力開発機構) において実施

## 目的

- 義務教育終了段階 (15 歳) において、それまでに身につけてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測る。(※学校カリキュラムの習得を測るものではない。)

## 内容

- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野の調査  
(実施年によって中心分野を設定して重点的に調査)

〔※13 種類の内容が異なる問題冊子を使用し、生徒は 1 種類の問題冊子を 2 時間で回答。〕

- あわせて、生徒質問紙、学校質問紙による調査を実施。

## 対象

- 調査段階で 15 歳 3 か月以上 16 歳 2 か月以下の学校に通う生徒  
(日本では高等学校 1 年生が対象)

〔※2009 年調査では、国際ルールに基づいて無作為抽出した結果、我が国から、高等学校・中等教育学校後期課程・高等専門学校のうち、185 校 (学科)・約 6,000 人が参加。〕

## 調査実施年

- 2000 年から 3 年ごとに実施。  
2000 年は読解力、2003 年は数学的リテラシー、2006 年は科学的リテラシーを中心分野として調査し、2009 年は 2 度目の読解力中心の調査を実施。

### 【今後の予定】

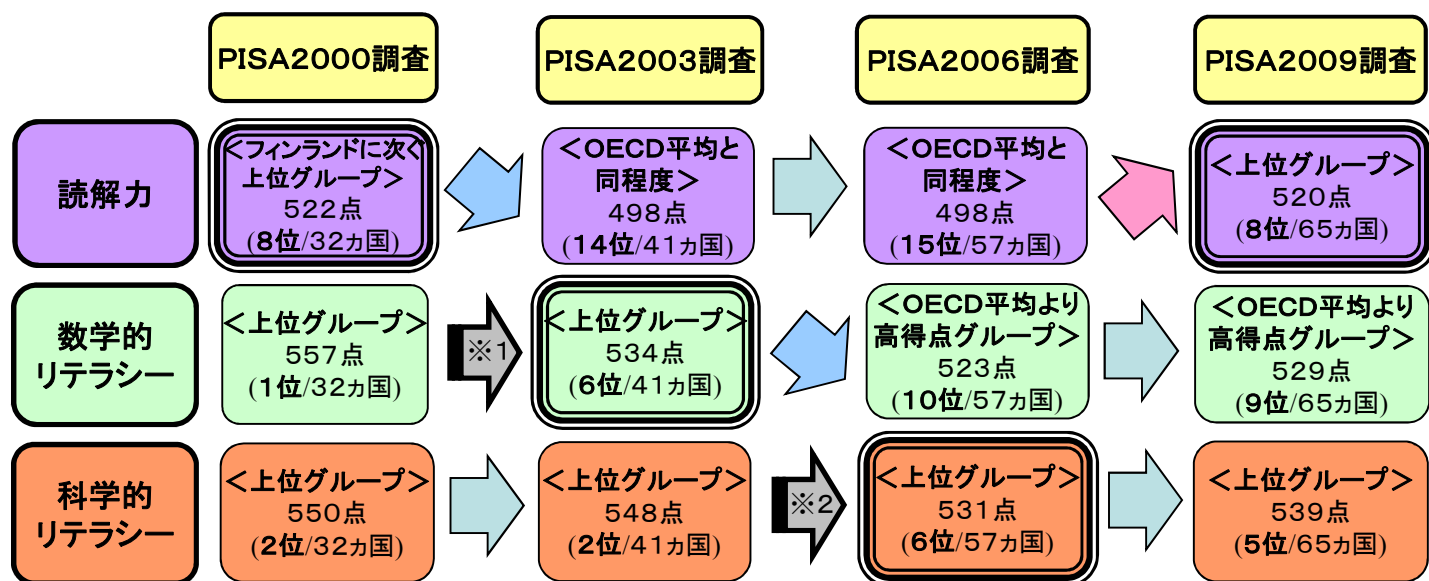
- 2012 年 数学的リテラシー (結果公表は 2013 年 12 月)
- 2015 年 科学的リテラシー

# OECD生徒の学習到達度調査(PISA2009)の結果 (参考2-②)

「活用する力」を調査するPISA調査※においては、読解力を中心に生徒の学力は改善傾向

※PISA調査: OECDが実施する15歳児(高校1年生)を対象とした国際学習到達度調査

## OECD「生徒の学習到達度調査(PISA)」における順位の推移



※1 2000年、2003年の共通領域の結果で比較

※2 出題の枠組みが変わったため、比較可能な共通問題の結果で比較

## PISA2009の結果

○読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある。

・各リテラシーとも、2006年調査と比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加している。

・しかしながら、トップレベルの国々と比べると成績の下位層が多い。

○読解力については、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手である。

○読解力の習熟度レベル別割合

	レベル1以下	レベル2	レベル3	レベル4以上
日本	13.6%	18.0%	28.0%	40.4%
上海	4.1%	13.3%	28.5%	54.1%
韓国	5.8%	15.4%	33.0%	45.8%
フィンランド	8.1%	16.7%	30.1%	45.1%
香港	8.3%	16.1%	31.4%	44.3%

○数学的リテラシーについては、OECD平均は上回っているが、トップレベルの国々とは差がある。

## 高等学校段階における学力調査 実施道府県一覧（平成24年度）

NO	都道府県	名称	趣旨・目的	対象者	調査対象	対象人数	実施時期	教科・科目	その他
1	北海道	北海道高等学校学力等実態調査	本道の高等学校生徒の「確かな学力」を育成するため、学習指導要領に示された教科の目標の実現状況を客観的に把握し、指導方法の工夫改善を図るとともに、調査問題の作成を通して、各学校におけるテスト問題の質の向上に資する。	(1) 参加対象校 ア 道立高校（全日制のみ）及び道立中等教育学校 イ 希望する道立高校（定時制）、市町村立高校及び私立高校 (2) 調査対象学年 ・原則として、2学年（ただし、実施する3科目の履修が修了していない場合は、3学年または4学年（定時制課程）とする。） ・参加生徒数は、調査対象学年全員を原則とするが、各学校が自校の学力の実態を把握できるクラス（1学年2学級以上の学校においては、2学級以上）の生徒数とする。	・公立高校（全日制のみ） [226校(96.6%)] ※道立は全校参加 ・公立高校（定時制） [5校(11.4%)] ・私立高校 [0校] ・道立中等教育学校 [1校(100%)]	2年生：18,571人 3年生：8,633人 4年生：12人 ※2年生に中等教育学校の5年生を含む  【道立高校（全日制のみ）は悉皆調査】	・4月～5月	・国語（国語総合）、数学（数学Ⅰ）、外国語（英語Ⅰ）、学習状況等質問紙調査	・平成17年度研究指定校対象に開始 ・平成21年度から全道立高校（全日）対象に実施
2	岩手県	基礎力確認調査	教育行政目標（学力向上）の指標として及び各学校における学習指導の改善のため。	・公立高校（全日制のみ）の1年生及び2年生 ・希望する私立高校（全日制のみ）並びに県立特別支援学校高等部の1年生及び2年生	・公立高校（全日制のみ） [65校(100%)] ・私立高校（全日制のみ） [2校(15.4%)] ・県立特別支援学校高等部 [5校(38.5%)]	1年生：約10,000人 2年生：約10,000人  【公立高校（全日制のみ）は悉皆調査】	・4月	・国語、数学、英語、学習状況等質問紙調査	・平成22年度から実施
3	宮城県	みやぎ学力状況調査	教育行政及び各学校における学習指導の改善。	・公立高校の1年生及び2年生	・公立高校 [79校(100%)]	1年生：約15,000人 2年生：約15,000人 【公立高校は悉皆調査】	・7月	・1年生：学習状況等質問紙調査 ・2年生：国語、数学、英語、学習状況等質問紙調査	・平成17年度から全員対象に実施 ・平成20年度から復興教育支援事業に位置づけて実施
4	神奈川県	神奈川県立高等学校学習状況調査	学習指導要領の各教科・科目の目標、内容に照らした生徒の学習状況及び学習意識について調査を行い、継続的に把握・分析することにより、各学校での継続的な教科指導の改善を図る。	・県立高校（全日制のみ）の2年生 ・県立中等教育学校の5年生	・県立高校（全日制のみ） [139校(100%)] ・県立中等教育学校 [2校(100%)]	（県立高校） ・2年生：約38,200人（県立中等教育学校） ・5年生：約300人  【県立高校（全日制のみ）は悉皆調査】	・6月	・国語、数学、英語、学習状況等質問紙調査	・平成16年度から抽出により実施 ・平成20年度より全員対象に実施 ・平成21年度より隔年実施
5	長野県	学力実態・意識調査	教育行政及び各学校における学習指導とキャリア教育の改善。	・公立高校の1年生及び2年生の各1クラス	・公立高校 [86校(100%)]	・1年生：約3,600人 ・2年生：約3,600人	・12月～1月	・国語、数学、英語、学習状況等質問紙調査	・平成21年度までは4年に1回、1、2年生の約8%に実施 ・平成24年度からは、毎年実施予定
6	愛知県	高等学校新入学生徒学力調査	中高連携に資する資料及び高等学校（特別支援学校高等部を含む）第1学年における指導上の参考資料を得るため。	・希望する公立・私立高校（全日制のみ）及び県立特別支援学校高等部の新入学生	・公立・私立高校（全日制のみ）、県立特別支援学校高等部  国語106校 [うち県立91校(53.0%)] 英語112校 [うち県立97校(56.4%)] 数学132校 [うち県立115校(66.9%)]	・新入学生徒 国語：約28,300人 英語：約31,300人 数学：約33,300人	・3月下旬～4月中旬	・国語、数学、英語	・英語は昭和29年度から、国語と数学は昭和30年度から実施
7	京都府	府立高校実力テスト	生徒の学力実態を把握した上で、教科指導の充実等を図るとともに、一人一人の希望進路の実現に役立てる。	・府立高校（全日制のみ）の1年生及び2年生 ・府立盲学校、府立聾学校の1年生及び2年生	・府立高校（全日制のみ） [46校(100%)] ・府立盲学校 [1校(100%)] ・府立聾学校 [1校(100%)]	1年生：約13,000人 2年生：約13,000人  【府立高校（全日制のみ）は悉皆調査】	・1年生：4月、1月 ・2年生：6月、1月	・1年生：国語、数学、英語 ※平成25年1月は質問紙調査も実施予定 ・2年生：国語、数学、英語	・平成2年度から全校実施

NO	都道府県	名称	趣旨・目的	対象者	調査対象	対象人数	実施時期	教科・科目	その他
8	広島県	広島県高等学校共通学力テスト	結果の分析を通して、学習指導要領における教科・科目の目標の達成状況を把握し、今後の各学校における指導内容や指導方法の工夫・改善に役立てる。	・公立高校の1年生及び2年生 ・公立特別支援学校で高校に準ずる教育課程を履修している1年生及び2年生	・公立高校 [92校(100%)] ・高校に準ずる教育課程を置いている公立特別支援学校 [6校(100%)]	1年生:約17,000人 2年生:約16,000人 (H23年度実績) 【公立高校は悉皆調査】	・11月	・1年生:国語(国語総合)、数学(数学I・数学活用)、外国語(英語I・オーラル・コミュニケーションI)、学習状況等質問紙調査 ・2年生:国語(国語総合)、数学(数学I・数学基礎)、外国語(英語I・オーラル・コミュニケーションI)、学習状況等質問紙調査	・平成14年度から実施
9	香川県	県下一斉英語学力テスト	県下の高校生の英語力の把握と、各学校における学習指導の改善。	・希望する公立・私立高校(全日制のみ)並びに県立特別支援学校高等部の1年生及び2年生	・公立・私立高校(全日制のみ)、県立特別支援学校高等部 1年生 [37校(74%)] 2年生A [24校(48%)] 2年生B [25校(50%)]	1年生:6,097人 2年生A:2,556人 2年生B:3,772人	・4月	・1年生:ペーパーテスト及びリスニングテスト ・2年生:難易度の異なるA、B2種類のペーパーテストから各学校で選択	
		数学学力テスト	県下の高校生の数学学力の把握と、各学校における学習指導の改善。	・希望する公立・私立高校(全日制のみ)並びに県立特別支援学校高等部の1年生及び2年生	・公立・私立高校(全日制のみ)、県立特別支援学校高等部 1年生その1 [26校(52%)] 1年生その2 [25校(50%)] 2年生その1 [24校(48%)] 2年生その2 [23校(46%)]	1年生その1:4,014人 1年生その2:3,443人 2年生その1:3,131人 2年生その2:3,331人	・4月	・1年生、2年生とも、難易度の異なるその1、その2の2種類のペーパーテストから各学校で選択	
10	高知県	学力定着把握調査	新1年生の高等学校入学以前の学習事項の定着度や課題の分析、高校入学以降の学力向上対策の研究、県全体の学習指導の共有と向上。	・県立高校(全日制及び多部制屋間部のみ)の1年生 ・県が指定する県立高校(全日制及び多部制屋間部のみ)の2年生	・県立高校(全日制及び多部制屋間部のみ) 1年生 [36校(100%)] 2年生(県指定) [12校(32.4%)]	1年生:約4,500人 2年生:約600人 【県立高校(全日制及び多部制屋間部のみ)の1年生は悉皆調査】	・1年生:年間2回(4~5月、9~10月) ・2年生:年間1回(4~5月)	・国語、数学、英語、学習状況等質問紙調査	・平成24年度より「学力向上対策の研究」事業として実施 ・平成23年度までは、全1年生対象に学習支援テストを実施
11	大分県	専門高校等共通到達テスト	学習内容の定着状況を把握し、その結果を分析・検討することで、各学校における指導の改善を図り、生徒の学力向上に資する。	・公立高校(全日制のみ)のうち、農・工・商・家・水・総合学科及び就職希望の多い普通科の1年生及び2年生	・公立専門高校等(全日制のみ) [24校]	1年生:約3,000人 2年生:約3,000人 (H23年度実績)	・6月	・1年生:中学校における国語、数学、英語 ・2年生:第1学年の国語(国語総合)、数学(数学I)、英語(英語I)	・平成23年度から実施 ・教員を対象に指導方法等に関する調査も実施
		学習習慣等実態調査	生徒の学習実態や学習の対する意識を把握することで、指導上の課題を明らかにし、その改善を図る。	・公立高校(全日制のみ)の1年生及び2年生	・公立高校(全日制のみ) [47校(100%)]	1年生:約8,000人 2年生:約8,300人 (H23年度実績) 【公立高校(全日制のみ)は悉皆調査】	・7月までに実施	・学習状況等質問紙調査	・平成17年度から実施をしているが、今回報告の形式は平成23年度から実施
12	沖縄県	達成度テスト	高校1年生で学習した基礎的基本的事項の達成状況を把握し、各学校における生徒の学習の反省及び教師の指導法の工夫改善に資するとともに、県の教育施策資料として活用する。	・県立高校の2年生	・県立高校 [60校(100%)]	2年生:約15,000人 【県立高校は悉皆調査】	・4月	・国語、数学、英語	・平成3年から14年までは毎年実施していたが、平成15年度より3年毎の実施

<※参考 学力テストを伴わない調査>

NO	都道府県	名称	趣旨・目的	対象者	調査対象	対象人数	実施時期	教科・科目	その他
1	福井県	学習と進路に関するアンケート	生徒の学習意欲の喚起、教師の授業改善および指導力向上、クラスおよび学校経営の改善。	・県立高校の全生徒	・全県立高校	1年生:約6,000人 2年生:約6,000人 3年生:約6,000人 4年生:約100人 (定時制のみ)	・7月	・全学年:学習状況等質問紙調査 授業や学習に関すること 進路意識・キャリア教育に関すること 家庭学習・生活に関すること	・平成24年度から実施
2	兵庫県	高校生生活実態学力状況調査	学校の現状を踏まえたうえで、学力の向上を推進するため。	・県が指定する県立高校の1~3年生	・学力向上研究校30校	1年生:7,238人 2年生:6,541人 3年生:6,637人	・7月	・学習状況等質問紙調査	・県立高等学校全校に行っていた調査を研究校に対して項目を精選して実施

## 高等学校における「必履修教科・科目」と「共通必履修科目」等について (平成 21 年学習指導要領改訂の考え方)

※ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月17日中央教育審議会答申)及び「高等学校学習指導要領解説総則編」(平成21年11月)より

### 【改訂の考え方】

高校生に最低限必要な知識・技能と教養の幅を確保するという「必履修教科・科目」の趣旨(共通性)と学校の創意工夫を生かすための裁量や生徒の選択の幅の拡大(多様性)とのバランスを図る。

## 高等学校における教科・科目等の構成について

### 1 教科・科目

① 必履修教科・科目(共通必履修科目を含む)

② 各学科に共通する教科・科目のうち必履修教科・科目以外の教科・科目

③ 学校設定教科・科目: 地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、各学校で設定する各学科に共通する教科・科目以外の教科・科目  
\* 卒業単位数に含めることができるのは20単位以内

2 総合的な学習の時間(すべての生徒に履修させる必要)

3 特別活動(ホームルーム活動<原則年間35単位時間以上>、生徒会活動及び学校行事から構成)

※ 卒業までに修得させる単位数は74単位以上

※ 学校においては、卒業までに修得させる単位数を定め、校長は、当該単位数を修得した者で、特別活動の成果がその目標からみて満足できると認められるものについて、高等学校の全課程の修了を認定。

## 「必履修教科・科目」について

- 学習指導要領に定める高等学校の「必履修教科・科目」(すべての生徒に履修させる教科・科目)は、「高等学校とは何か」ということを学習内容の面から国が示したもの。
- 共通性と多様性のバランスに配慮し、各「必履修教科・科目」の単位数を原則として改訂前より増加させないこととした。(合計で最低31単位)

## 「共通必履修科目」について

- 学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語、数学、外国語の必履修科目については、すべての高校生が共通に履修する「共通必履修科目」を設けることで、高等学校の教育課程の共通性を高めることとした。
- 具体的には、「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を「共通必履修科目」として設定。



## 高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔平成21年告示〕

〔平成11年告示〕

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を └ 含む2科目 ┌ 又は └ 基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
	理科課題研究	1	
保健体育	体育	7~8	○ ○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話		2	
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └ ┌ ○ └
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ ○ └
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで減

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語表現Ⅰ	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	国語表現Ⅱ	2	
	国語総合	4	
	現代文	4	
	古典	4	
	古典講読	2	
地理歴史	世界史A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学基礎	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	数学Ⅰ	3	
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	理科基礎	2	┌ 2科目 └ (「理科基礎」「理科総合A」又は「理科総合B」を少なくとも1科目含む。)
	理科総合A	2	
	理科総合B	2	
	物理Ⅰ	3	
	物理Ⅱ	3	
	化学Ⅰ	3	
	化学Ⅱ	3	
	生物Ⅰ	3	
	生物Ⅱ	3	
	地学Ⅰ	3	
地学Ⅱ	3		
保健体育	体育	7~8	○ ○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	オール・コミュニケーションⅠ	
オール・コミュニケーションⅡ		4	
英語Ⅰ		3	
英語Ⅱ		4	
リーディング		4	
ライティング		4	
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └ ┌ ○ └
	家庭総合	4	
	生活技術	4	
情報	情報A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └
	情報B	2	
	情報C	2	
総合的な学習の時間		3~6	○

※ 赤字は共通必履修科目